



にじのはし幼稚園 園だより



令和6年10月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田美弥

秋分の日が過ぎ、心地よい風にほんのり秋の気配を感じます。「暑さ寒さも彼岸まで」という言い伝えを実感する日々です。残暑が長引き、外での活動が制限されていきましたので、運動会でお台場学園のアリーナを使わせていただけるのが本当に有難いです。

体を動かすのが気持ちいい季節となり、子どもたちは、外でも中でも心と体を動かして遊びを楽しんでいます。

本園は、健康な生活リズムと習慣、基本的な生活行動が身に付くようにします。

健康な心と体の育成に向けて、心と体が動く心地よさや楽しさの体験・基本的な動きの獲得を重視しながら、発達に即した運動遊びや戸外遊びの工夫を行います。

(幼稚園経営計画 4 経営の重点 今年度の主な取り組み より)



本園では、「子どもたちが楽しく体を動かす」ことができるように、幼児の実態を踏まえ、各学年の発達や興味関心に合うような遊びや環境を用意しています。体を動かして遊ぶことは動物などのイメージを伴うもの（例えば、ウサギになったつもりで動く）であったり、反対に動いているうちに様々なイメージ（例えば、「この歩き方は忍者みたいだね」→「忍者になろう」など）が生まれたりしながら、子どもたちの生活を豊かにしていきます。子どもたちの遊びには教科のような区分けはありません。遊んでいるうちに様々な力を身に付けられるように環境を工夫していくのが幼稚園の先生の醍醐味であるともいえます。そしてそれは、主体性を育むという令和の学校教育の基盤ともなっています。

また、にじっこ運動会では、5歳児が幼稚園の最高学年として、司会をしたり係の仕事をしたりします。どんな言葉を言おうか、何の係をしようかなど、自分なりに考えて決めたことに取り組む姿を、下学年はよく見えています。4・5歳児が踊っているのを見ながら自席で3歳児が体を自然に動かしている姿は微笑ましいものですが、それは主体的な学びの姿の芽生えとも捉えられます。子どもたちは毎日幼稚園で遊びを中心とした生活をする中で、様々なことを学んでいます。それは、教えられたからできるというものではなくて、日々の積み重ねの中で、薄紙を重ねるようにしながら体得していくものだと思います。行事の前の一週間で子どもたちがぐんと成長したように感じることは、その積み重ねが底力や芯の強さになっているからではないでしょうか。

遊びを中心とした環境を通して行う幼児教育の実践により、子どもたちが主体的に環境に関わる中で、目的意識をもつこと、様々な試したり工夫したりして体を動かし、色々な動きを獲得すること、運動能力や技術を高め、充実感や達成感を味わうことなど、心と体を一体的に育てていく2学期です。まずは9月末のにじっこ運動会が、子どもたちの心身の成長を感じる機会となることを願っています。

